令和４年度
金沢大学ステークホルダー協議会

実施報告書

令和４年９月

国立大学法人金沢大学

概　　要

日　時：令和４年７月２日（土）　16：00～18：00

会　場：本多の森会議室〔金沢市石引４-17-1〕

全体会：第一会議室，分科会：第一会議室，第三会議室

プログラム：

16:00　開会

16:03　学長挨拶・近況報告

16:35　分科会

17:25　分科会報告・全体意見交換

18:00　閉会

開会のあいさつをする和田学長

出席者数：125 名

【内訳】(　)はオンライン参加者で内数

学外：49 名(12 名)

学生の父母等３名(1 名)，卒業生３名(2 名)，

高校関係者６名(2 名)，地域 11 名(1 名)，

地域(国際)３名(1 名)，企業 12 名(2 名)，

自治体５名(1 名)，経営協議会委員１名(1 名)，

健寿会３名，報道機関１名，その他１名(1 名)

学内：64 名（13 名）

学生 23 名(４名)

教職員 41 名(9 名)

（うち会場事務スタッフ 17 名）

学内列席者：12 名

あいさつをする安宅建樹　学友会会長

閉会のあいさつをする大竹理事

ステークホルダーのご意見

分　科　会

今年度は，分科会形式での意見交換を初めて行いました。参加者は８つのテーブルに分かれ，金沢大学の前身校の一つである第四高等学校の校章「四稜星章」が北辰（北極星）を表したものであることから，その周りに位置する夏の星座をテーブル名としました。

■テーブル：北斗七星■

テ ー マ ：社会・経済・産業・医療における地域と大学の連携について考える

ファシリテーター：坂本二郎 学長補佐

ステークホルダー：自治体２名，地域１名，企業２名，卒業生１名，学生２名

地域課題解決や地域活性化に向けた活動として，①～④のとおり紹介があった。

①県境を超えた広域連携による価値創出と地方創生：

北陸未来共創フォーラム

https://hokuriku-mirai.jp/

北陸地区国立４大学と北陸の多様な企業・諸団体・行政機関等が，フィジカル・サイバー両空間で協業する「北陸産学官金共創システム」を構築するとの基本ビジョンのもと，プラットフォームを起ち上げ，大学・行政・企業・市民が一体的・相互補完的に支え合うファンディングシステム・産業クラスターの構築，北陸産学官金共創システムを支えるポストコロナ時代の人材の輩出という３つの取り組みを展開。北陸の多様なプレーヤーが出会い，集い，学び合い，フィードバックし合うことで，北陸の地方創生・経済振興を推進する。全国の地方創生のロールモデルとして活動を開始。

②地域に根差した人材の育成と地元定着の促進：

Project: AERU

https://www.kanazawa-u.ac.jp/society/distinctive/project_aeru

地域基幹産業を再定義・創新する人材創出プログラム「ENGINE」

https://engine-prgm.w３.kanazawa-u.ac.jp/

③自治体や企業と共に取り組む新たな共創拠点づくり：

バイオマス・グリーンイノベーションセンター（建設中）

理工学域能登海洋水産センター

https://bio.w３.kanazawa-u.ac.jp/bio/noto_kaiyo.html

④自治体や企業と共に取り組む実践型課題解決：

能登里山里海 SDGｓマイスタープログラム

https://www.crc.kanazawa-u.ac.jp/meister/

共創型企業・人材展開プログラム

https://ikoc.net/kyoso_kanazawa/

また，附属病院経営プラン 2022 に基づき，医療における地域での役割，重点項目や元気が出る附属病院の実現に向けた将来像について説明があった。

以上を踏まえ，連携の方法として，これまでの一つの研究グループや教育単位での結びつき（個別対応型）に加え，北陸未来共創フォーラムでの連携（包括的な組織連携型）を推し進めることは，異分野融合を活性化させるとともに，社会課題の解決，社会実装の促進に繋がること，また，そうした環境で育った本学学生がフォーラムの多様な機関に輩出されることは地方創生に寄与できるとの説明があった。

【意見交換】

1. 地域に根差した人材の育成について

学生がまとまった期間で地域に訪れてじっくりと腰を据えて学ぶようなことができないか，さらにはそうした取り組みが必修単位となるようにできないか意見があった。

この意見に対して，大学から，融合学域では企業に行き，企業が抱える課題を 1 年間かけて一緒に考え，単位をもらえるカリキュラムがある。続けて来てほしいと思っていただけるかどうかが重要であり，継続できる取り組みを少しずつ増やしていきたいとの説明があった。

また，こうした取り組みにおいては，住民を主体として，そのことをいかに自分が黒子となって進められるかが成否に繋がっている。もちろん，学生なので自分でなんとかしたいという気持ちも素敵なことだが，人が関わるという観点を持っていると成果が上がりやすい。短いスパンだとなかなか信頼が得られない。少しずつでも良いので，時間をかけてお付き合いをしていくという感覚があると良いとの意見，さらに取り組みに対する一定の評価があると大きな成長につながるのではとの意見があった。

2. 石川県内の医師の派遣について

地域の病院においては，医師を派遣いただくことに苦労している。内科外科の再編があったがそれでも難しく，どのようにお願いしていけばよいか。できれば金沢大学がある限り，県内で医師不足はないというところまでやってほしいとの意見があった。

この意見に対して，大学から，石川県は卒業した医師を毎年 100 人確保しないと不足する状況だが，最近は 100 人を割っているので心配なところであり，金沢大学卒の石川県出身の医師が３5%程度，北陸三県で 50%ほどになるが，県内にはとどまってくれておらず，高校の段階から石川県の医療人材を育てていくことが必要ではないかとの問題提起があった。

■テーブル：カシオペヤ座■

テ ー マ ：「金沢大学に望む国際化・SDGs 推進，および国際化一般」

ファシリテーター：ママードウアアイーダ 学長補佐，林宜仁 学長補佐

ステークホルダー：自治体１名，地域１名，地域（国際）２名，健寿会１名，学生２名，オンライン２名

金沢大学の国際化やＳＤＧｓ推進の理念は，「地域」と「世界」とのパートナーシップによる「『知』と『人材』の創出」であらわされる。そのことを踏まえ，①金沢大学で国際化を進めるためには，何が必要か②金沢大学に何が期待されるか③国際化を進めるために何が足りないかについて，意見交換を行った。

【意見交換】

１．独立行政法人国際協力機構（JICA）は，開発途上国（アジア，アフリカ，中南米）への国際協力，国際交流を進めていくため，将来その国のリーダーや政策決定者，研究者であれば分野のトップリーダーになるであろう人々の留学を進めている。JICA 開発大学院連携プログラムも，大学と連携しながら，留学生に日本，日本の地方，北陸地域を知ってもらい，単なる文化体験だけでなく，発展してきた歴史や開発途上国で参考となる教訓等も含めて学ぶ事で，親日家，知日家になってもらえるプログラムができるとよい。

JICA 開発大学院連携プログラム

https://www.jica.go.jp/dsp-chair/dsp/overview/index.html

２．金沢大学が目指している国際化の概念は，研究が国際的に展開され，教育においても国際的な水準にあるという事である。さまざまな人の学びの場であり，多様な言語教育（特に英語）がなされ，教職員も多様な人達で構成される等，一言で言うと，大学が国際的な機関である事との説明があった。その説明に対し，国際的な活動，取り組み，研究に関わる機会のない学生をいかに巻き込むかが課題との意見があった。

３．留学生から，グローバル化に向けて必要な事として，次の意見があった。

(ア)受講したくなる英語授業の開発と拡充

受講倍率が低いため選択しやすいからではなく，受講したくなる英語授業とするため，教材の開発，教員の研修も含めて改善する必要がある。

(イ)留学生に開かれたサークル運営

文系と理系の垣根を超えて学生のコミュニケーションをとる場がサークルであるが，10 月入学の学生には，サークルの勧誘そのものがない。10 月入学の留学生もサークル

に参加できれば、様々なサークルを通じて，多様なグローバルな視点から SDGs に貢献できる。

(ウ)宗教による食事制約への対応がコロナのために打ち切られているので，今後復活させていく必要がある（生協の食堂，購買）。

(エ)日本の学生は，英語の能力，TOEIC だけでなく，日本語が苦手な留学生とも積極的に話をしてほしい。色々なイベントに参加して，外国人と話す事の楽しさを認識できると良い。

4．10 年前に比べると金沢大学の色々な情報提供は英語表記がされてよくなったが，Web サイトで登録をする時など，特有の日本語表記のためサポートが必要な事も多い。また，奨学金の申請は４月入学前提の制度が多く，10 月入学の学生に対する他の財団や県の奨学金を含む各種奨学金の紹介を充実してほしい。また，グループワークでは，留学生だけのグループができやすいので，日本人学生と留学生のコミュニケーションができるように教職員がグループ分けを配慮してほしい。

5．金沢大学には，県内で最大数の留学生と外国人教員がいることから，県内在住の外国の方々のニーズを伝える役割を果たしてほしい。

6．企業と留学生，企業と大学との接点が少ないため，大学が間に入って交流を推進してほしい。また，日本人学生が海外留学することが大学の国際化に繋がるので，支援をお願いしたい。

7．10 年前に比べると良くなったが，全てのゴミ箱が英語表記されていない等，不便な所がまだある。英語が話せる事務職員も増えたが，さらに外国人職員を増やすことでも国際化が進むと思う。

■テーブル：こと座■

テ ー マ ：金沢大学の広報戦略　～私達の活動が伝わっていますか？～

ファシリテーター：本田光典 学長補佐，佐無田光 学長補佐

ステークホルダー：自治体１名，地域２名，企業１名，教職員 OB １名，学生２名

金沢大学の基本理念と目標を定めた「大学憲章」の説明があった後，大学改革推進委員会において定めた「広報戦略」の５つの基本方針及び６つの行動計画について，取り組みの実例を交えた説明があった。続いて，広報の連携体制について説明があり，Web サイトの構造や各種 SNS による情報発信・動画配信，発行している広報誌，テレビ番組や CM での広報展開について紹介があった。

【意見交換】

1. 大学公式 Web サイトについて

大学公式 Web サイトは内容が充実していると思う反面，まだまだ掲載が足りていない部分や工夫次第でもっと見やすくできると思う。また，非常に難しい印象を受ける研究について，研究者でなくとも分かりやすい内容での発信をお願いしたいとの意見があった。

この意見に対して，大学から，できるだけ分かりやすい Web サイト構築を心がけてはいるが，情報が多すぎて我々としても分かりづらいと思うところがあること，また見る側の視点で情報を出せていない部分もあると思われ，改善に繋げていきたいとの説明があった。

2. 学生募集広報について

各高校に数部単位で構わないので，大学のパンフレットを配付しておけば，あまりインターネットを活用して情報を得（ることができ）ない高校生に対しても情報が届きやすくなる。

また，大学の改善点を学生や教職員からのリアルな声として捉えることができれば，より良い広報に繋がるのではないか。リアルな声を集めるためには匿名性が重要であり，なんでも相談室だけでなく，匿名で意見を集約できる目安箱的な取り組みがあったらよいのではとの意見があった。

この意見に対して，大学から，パンフレットについて，要望のあるところには送付しているが，その他の高校には送付しておらず，今後検討したい。また，匿名性のある意見集約の取り組みについて，目安箱的な取り組みを実施している学類はあるが，周知が不足しているとも思われ，改善に繋げたいとの説明があった。

また，その他，学生募集広報に関して，都市圏の受験生が数ある大学の中からあえて地方大学を選択するには積極的な理由が必要となるため，そうした理由に繋がる金沢大学の強み（研究面よりも教育面の特徴）を前面に押し出した広報が必要と思う。融合学域や理系の学類の広報はよく目にするが，文系の広報が弱いため，積極的に広報してほしいとの意見があった。

3．その他のご意見

その他，以下のとおり意見があった。

- 卒業生・在学生に対し，もっと訴求力のある広報を考えてほしい。
- 第三者からの高評価がもたらす効果は非常に大きい。大学が主体となって発信することだけでなく，学内外の人材を使っての発信，インフルエンサーを活用した発信を検討してはどうか。
- Web サイトや SNS を通して，知りたい情報はほぼ確認することができるが，まだまだ自分から情報を探しに行かないと情報を発見できない状況である。
- 同窓会の立場からも広報活動が必要であると思う。金沢大学の素晴らしい点について，熱意をもって伝えることが重要である。

■テーブル：わし座■

テ ー マ ：「金沢大学の高大接続」

ファシリテーター：山本茂 学長補佐

ステークホルダー：高校関係者２名，地域２名，健寿会１名，学生２名

本学の高大接続の取り組みとして，①～④について大学から説明があった後，種々意見交換が行われた。

【取り組み】

① KUGS 特別入試

https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission/special/kugs

② 超然特別入試

・A-lympiad（エーリンピアード）選抜

・超然（ちょうぜん）文学選抜

https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission/special/chozen

③ 金沢大学グローバルサイエンスキャンパス(GSC)

・将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材を育成することを目的として，地域で卓越した意欲・能力を有する高校生や高専生等を対象に，国際的な活動を含む高度で体系的な学修と実践を提供する高大接続理数教育プログラム

https://gsc.w３.kanazawa-u.ac.jp/

④ 金沢大学ジュニアドクター育成塾

・未来の科学者を目指す子どもたちを支援するために金沢大学が主催する小・中学生向け科学講座

https://jr-doc.w３.kanazawa-u.ac.jp/jd/

【意見交換]

１．金沢大学の高大接続型入試について

・ 高校と大学をつないで学びながら探求力を高めることができる入試制度だと感じた。これらの入試等の高大接続の取り組みにより，金沢大学を希望する受験生や，自ら学ぶ意識を持った生徒が増えるのではと思った。

・ 金沢大学の高大接続入試等の取り組みによって，多様な種類の学生が集まり，大学の未来を培うことにおいても役立つのではと思った。

・ 特別入試で入学した学生が，授業についていけているのか，今後どのような学修成果を出すか等，追跡調査をお願いしたい。

⇒　金沢大学の回答

本学は教育重視の研究大学であり，国内外の大学と競う場合，大学院の強化が非常に重要である。政府も国を挙げて博士人材を養成すべきとの認識で，本学では高校生の早い段階から専門分野や興味のあるところを決めている学生を対象に，高大接続の取り組みにおいて，研究とはどういったものなのかを体験してもらい，探求力を高め，大学院進学への意識付けを図っていく。

特別入試による入学者の追跡調査については，本学も課題としている。なお，超然文学選抜入学者をサポートする取り組みを始めている。

2．大学院への進学について

・ 博士後期課程の修了には 9 年間要することが進学へのネックと考えている学生がいる中，早期修了の制度により，チャレンジする意欲を高める方策が必要ではと考える。それと同じように，飛び入学という道もあると良い。学生にとって色々な学修の形があることを示し，大学教育の実績づくりをお願いしたい。

⇒　金沢大学の回答

早期修了，飛び入学について，早期に社会に出ることが可能というところがポイントだが，本学の実績として，早期修了はごく一部のみ，飛び入学は実施していない。

国として飛び入学制度の創設から 20 年経過している中，実績は増えていない。それは高校生自身が，３年間を友人らと共に過ごしたいという意見が多い現状があり，また，飛び入学をすると高校卒業資格がないことも問題となっている。

一方，私立大学では，高校生にも大学の学びを見てもらい，興味関心があれば講義に参加し単位認定する等，高校の段階で大学の単位取得を可能とする事例が出ている。

3．その他

・ 国からの AO・推薦入学者を３割にする目標に関し，金沢大学の現状を教えてほしい。
・ 私大では教員養成に向けて学生を増やし授業を充実させている。富山大学との共同教員養成課程について進捗状況と，共同でやることのメリットを教えてほしい。

⇒　金沢大学の回答

AO・推薦（これらは総合型選抜・学校推薦型選抜と呼んでいる）や一括入試などの特色ある入試による入学者の割合については，現状 2 割程度で，今後３割程度とする目標を掲げている。

令和４年度入学選抜から開始した共同教員養成課程について，両大学とも倍率は上がり，両県の教育委員会も非常に期待している。少なくとも教職志望の学生が大変不足しているなか，優秀な学生の入学に非常に喜んでいる。講義に関し，2 年次以降はオンラインによる講義数が増え，両大学の並列授業で行う。また，今後両大学の学生は，合宿等で交流する。

共同により，両大学のバラエティに富んだ科目を用意でき，学生あたりの教員数も他大学より多いというメリットがある。

■テーブル：はくちょう座■

テ ー マ ：「金沢大学の入学者選抜試験」

ファシリテーター：谷内通 学長補佐

ステークホルダー：高校関係者２名，父母等２名，学生２名

文部科学省が示す高大接続改革により，本学においても様々な入試改革が行われている。令和３（2021）年度入学者選抜では，金沢大学で学ぶことを希望する多様な学生を幅広く受け入れるため，後期日程試験を廃止し，新たに「KUGS 特別入試」および「超然特別入試」を導入した。

分科会では本学が実施する各入学者選抜の概要について大学から説明があった後，種々意見交換を行った。

金沢大学受験生特設サイト

https://examination.w３.kanazawa-u.ac.jp/

【意見交換]

ステークホルダーから，以下のとおり意見があった。

- 金沢大学では，学力だけではなく，主体性や探求力等を評価した入試を行っていることに，好感を持った。今後も進めていただきたい。
- 特別入試で入学した学生は，入学後何か特別なことはあるのか。特別入試での入学者には特別なカリキュラム等があると，より受験者が増えるのではないか。

⇒　金沢大学の回答

- 特別入試は入試改革で 2 年前から導入したところで，今後さらに浸透させていかなければならないと考えている。また，KUGS 特別入試，超然特別入試入学者の追跡調査は現在行っており，その結果を今後の入試改革に繋げていく予定である。特別入試の入学者に対する対応もその過程で検討したい。
- 金沢大学では，入試区分に関わらず，教え込む教育から，学生が自ら学び，自ら育む環境を今後も進めていく方針である。
- 特別入試と一般入試のどちらの場合も学類毎に学位を取るためのディプロマポリシーが決まっているため，どちらの入試で入学しても目標は同じである。最近ではプログラム制を導入する学類が増えてきている。プログラム制では，選択プログラムの要件を満た

す範囲で学生は自由に科目を選んで卒業することができる。科目も選択範囲もこれまでより拡大し，学生本位の学修を実現できるようにカリキュラムを工夫している。

・ 超然特別入試に関しては，入学後，超然文学賞の審査員でもあるプロの小説家とプロの短歌の歌人を講師とした講義を開講しており，一般入試も含めて多くの学生が受講している。また，学生同士で新しい作品集を作る計画を立てるなど，学生間の交流が盛んにおこなわれている。

＜ステークホルダーからの事前意見＞

・ コロナ禍における金沢大学の経営の考え方や進め方，それらの成果並びに今後の経営方針を伺いたい。
・ 附属学校において，昨今の働き方改革によって，休日や，平日の時間外に，学校への連絡・相談が難しくなっている。趣旨は理解しているが，保護者や生徒にとっては，先生とのコミュニケーションのハードルが上がるのではと感じている。例えば，フレックスやシフト勤務，時差出勤などの採用や，時間外に対応できる人を別途採用されるなど何か対策を検討してほしい。

⇒ 金沢大学の回答

・ 本学はコロナ禍になる前から全学生にノートパソコンを持つことをお願いしている。また，授業資料やレポート提出を Web で閲覧・提出が可能なアカンサスポータルというラーニングマネジメントシステムを整備していたため，オンライン化が必要になった際に即座に対応することができた。また，教員の ICT スキルや意識も大きく向上した。今後，学生自ら学んでいく環境を目指すにあたり，授業の動画や資料などが常時利用できるように整備を進めることで，学生が予習・復習したい時にいつでも授業を見返せるような環境の構築を進めていく。そのような教材を蓄積することで，リカレント教育や卒業生の学び直しにも活用できるようになると考えている。
・ 働き方改革による附属学校での時間外の対応について，各相談については担当の教員でないと対応が難しいものが多いため，シフト勤務や時間外対応のための人材の雇用は現時点では検討していない。より良い教育のためには教員の働き方改革も必須であるので，緊急の連絡先は必ず確保した上で，保護者と学校側のコミュニケーションの取り方の工夫による方法を検討したい。いずれにせよ，学校と保護者のコミュニケーションが不足しないような形で検討を進めていく。

■テーブル：てんびん座■

テ ー マ ：地域イノベーション創出に向けて大学に期待すること

ファシリテーター：長谷川浩 学長補佐，三浦久徳 学長補佐
ステークホルダー：地域１名，企業３名，学生３名

テーマの背景として，北陸経済連合会が掲げる「人々が豊かで幸せに暮らす北陸」の実現のため，大学の知を活用したイノベーションによる新産業創出や地域課題解決の取り組みが求められ

ていること及び「北陸近未来ビジョン～2030 年代中頃の北陸のありたい姿～」で大学に求められている役割，また，今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議により教育研究の高度化・多様化・国際化・地方創生・新事業新産業の創出に貢献するイメージとして示された「イノベーション・コモンズ」について説明があった。さらに，金沢大学の研究に関する現在の立ち位置についての説明に加え，緩やかな成長であった既存の産学連携を打破し，飛躍的な成果や社会課題の解決の実現を目指す金沢大学の新しい産学連携について，金沢大学未来ビジョン「志」の策定，多種多様な北陸のプレイヤーが出会い交流するためのプラットフォーム「北陸未来共創フォーラム」の立ち上げ，産産学学連携・カーボンニュートラル・地方創生の三つを柱としたバイオマス・グリーンイノベーションセンターの設置などの紹介を交えて説明があった。

金沢大学未来ビジョン「志」
https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/management/plan
北陸未来共創フォーラム
https://hokuriku-mirai.jp/

【意見交換】

1．地域のニーズと大学のニーズ

＜人材について＞

- 博士人材は，未知の課題に対してどう解決していくかといった方法を研究プロセスにおいて練習しており，仕事に置き換えても，課題解決の一連のサイクルが速い。そうしたことが企業に伝わるような広報を大学に要望したい。
- 企業は研究開発や課題解決ができる人材をどの業種においてもかなり求めているため，博士人材を育てるために大学が力を入れているのであれば，そうした情報発信は重要である。

＜共同研究について＞

- 企業は大学教員がどのような研究をしているのか分からないことが多い。オープンイノベーションを実現できれば，企業と大学の連携が強くなり，学生側からもこんな企業で働きたいといったニーズも増え，就職支援にも繋がり地域の活性化になると思う。
- 企業が共同研究の相談をする際，教員とのマッチングに課題がある。コーディネーターになる方の手腕が重要だが，現状，なかなかマッチングに繋がらない。
- 大企業だけでなく，地域にも力のある企業はたくさんあり，地域企業のグローアップを支援することは企業にとっても大学にとっても winwin であると思うので，そうした取り組みを推進してほしい。
- コロナ禍以前，大学との共同研究はスピード感がないと企業から言われることが多かった。しかし，コロナ禍になり，費用やリスクを抑えた研究開発として大学との共同研究を一つの選択肢と考える企業が増えている。地域の中小企業において，これまでは小口

の共同研究が多かったかもしれないが，金融機関による研究費用の支援などを活用することにより，中小企業においても大型の共同研究に取り組む機運が高まると思われる。

・ 大学のニーズと地域のニーズが乖離している。最先端の研究ということで説明を受けても，中小企業としては何の研究をしているのか全く分からないのではないか。アプローチの仕方も分からなくなっており，敷居を高くしてしまっている。融合学域の学生との取り組みでは，学生ができることの提案を具体的にしてくれるため，お互いのニーズに対し，できることとできないことが明確になっている。研究についても同じような手法でブラッシュアップできる仕組みが望ましい。

2．研究所について

・ 研究所の広報について，地域のニーズに応じた研究とそうでない研究など，住み分け等を分かりやすく広報すれば，情報を受け取る側も分かりやすいし，大学にとっても整理しやすいのではないか。

意見交換終了後，大学から，共同研究に至る前の学術コンサルティングや大学の設備を利用できるサービスなど（研究基盤利用のワンストップ窓口）について紹介があり，そうしたところから大きな共同研究に繋げていければとの発言があった。また，大学のシーズについて，既存の「研究分野別シーズ集」に加え，今後は未来の課題に対して大学がどのように貢献できるかという「研究ショーケース」を示し，共創の発展に繋げたいとの発言があった。

学術コンサルティング
https://o-fsi.w３.kanazawa-u.ac.jp/company/consulting.html
研究基盤利用のワンストップ窓口
https://skrs.adm.kanazawa-u.ac.jp/portal
研究分野別シーズ集
https://ridb.kanazawa-u.ac.jp/seeds/
研究ショーケース
https://o-fsi.w３.kanazawa-u.ac.jp/showcase/

■テーブル：いて座■

テ ー マ ：「産学連携と地元定着支援」

ファシリテーター：佐川哲也 学長補佐，瀬戸章文 学長補佐
ステークホルダー：企業５名，学生２名

産学連携と地元定着支援の２つのテーマについて，ステークホルダーからの事前意見をもとに，本学の現状を説明後，意見交換を行った。

【意見交換】

１．産学連携について

<ステークホルダーからの事前意見>

・ 金沢大学は今後，実質的に機能する TLO を具備する必要性は感じているか。

金沢大学 TLO の活性化について，まずは研究者の特許への関心を高める必要があるとの意見があり，これに対し大学側から，自身の研究が社会貢献や，製品化につながることの喜びや重要性を研究者間で広げる等，特許に関心を持つ取り組みを行っていくと回答があった。

また，TLO を活性化するためには，研究，ビジネス両方に精通し，研究者と企業の通訳を担う人材がとても重要であるとの意見があった。

«TLO とは»

大学の研究成果を特許化し，民間企業とライセンス契約などを締結して製品やサービスとして実施し，その対価によるより更なる研究を推進するための組織。大学の研究の更なる活性化をもたらす「知的創造サイクル」の原動力として，産学連携の中核をなす。国内には 32 機関あり。

«金沢大学 TLO（KUTLO）の現状»

金沢大学とは独立した組織として、有限会社 金沢大学 TLO（KUTLO）が組織されている。平成 24 年度以降は，年間の平均で届出 90 件，出願 60 件，実施契約 15～25 件あり，特許収入は年間 2000 万円程度となっている。少子化が進む中，将来的に大学が自立化していくための収入の一つとして，特許収入も注目されており，金沢大学 TLO の規模拡大を課題としている。

2．地元定着支援について

<ステークホルダーからの事前意見>

・ 地元企業への就職活動支援を充実してほしい。

本学の就職支援活動として，大学から以下①～④の説明があった。

① 金沢大学の就職・キャリア支援体制
② 合同企業説明会
③ OB/OG を通じた就職支援
④ 求人情報の提供依頼

企業から，インターンシップや採用に関する情報を提供しても，それに対する返事が大学から来ないことがある，また，企業側から見て，地元定着が進んでいる実感がない，企業側のアプローチに加え，大学側からもぜひ就職支援を拡大してほしいとの意見があった。

さらに，現状の就職活動は，４月に一斉就職するようなやり方であるが，採用時期をずらし，志願者の希望や都合に寄り添う採用活動も必要であるとの意見もあった。

これに対し，大学側から，企業が学内の人材育成に関わり，そのことを通じて地元就職，地元定着への拡大に取り組む必要があること，大学と企業の情報共有の拡大を最重要事項として，今後も就職支援を行っていくことの回答があった。

■テーブル：さそり座■

テ ー マ ：「今後の学修支援と学修環境整備の在り方」

ファシリテーター：片岡邦重 学長補佐，足立英彦 学長補佐

ステークホルダー：地域１名，健寿会１名，学生４名

学修成果や教育成果を定量的かつ定性的に把握・可視化して，教育及び環境の整備も含め改善・充実するため，学生の各種アンケート（授業評価アンケート，卒業・修了者アンケート，就業先アンケート及び学生生活実態調査）などのモニタリング調査について紹介があった。

授業評価アンケートに関しては，設問を全学共通化，回答スタイル及び回答方法を一新，アンケートに答えないと成績が見られないという仕組みにするなどの改善策が紹介され，回答率が人間社会学域で約３倍，理工学域で約４倍，医薬保健学域で約２倍にアップしたとの説明があった。

また，本学における学生生活環境の一層の充実に資するため日常生活の実態を調査する「学生生活実態調査」に関しては，福利厚生施設（食堂・売店及び課外活動施設）に対する要望について紹介があった。

【意見交換】

１．新授業評価アンケートについて

学生からは，声を集めるのも大事だと思うが，成績開示と紐づけされるのは疑問だとの意見があった。これに対し大学側から，回答をスキップしても成績を見る事ができるが，その機能を積極的に使わないように開示はしておらず，成績をすぐに見たい人はできるだけアンケートに回答してもらう設計にした。授業アンケートは概ね好評だが，成績開示と紐付けされている点について検討していきたいとの説明があった。

２．学生生活実態調査について

食堂・売店に対して充実してほしい事の上位は「味」「営業時間・営業日」「昼食時の混雑緩和」であった。これに対し生協担当者から，コロナ禍以前からの問題として人材確保が難しい

事を挙げ，夕方の生協購買の無人化の取り組み等，改善，効率化を含めて検討しているとの説明があった。

その他の意見は以下のとおりであるが，要望が大学執行部へ届くよう，学務部学生支援課を窓口に組織的に取り組むようお願いしたいと説明があった。

- アカンサスプリンターが使用できなくなったが，代替策の周知を徹底してほしい
- コンビニが遠い
- 生協に ATM を設置してほしい
- 北陸鉄道バスの最終便延長について，予約制など要求に応じて対応できないか
- 食堂のメニューに対する不満
- 課外活動施設の老朽化への対応及びエアコンの設置希望
- トレーニングルーム等施設の利用を再開してほしい
- 大学駐車場の枠線が見えにくいため，引き直してほしい
- 授業料の納付は紙でなく，Web 化してほしい

全体意見交換

分科会終了後，全体で意見交換を行いました。

在学生関係

① 学務係の対応について，全職員で質問に対する回答を統一してほしい。

② 駐車許可証について，知人が申請期間外に許可証を申し込んだところ，大学院生ではないため臨時駐車許可証が発行できなかったと聞いた。本来なら発行されている条件で，臨時だと発行されないのが不思議だ。

③ 観光デザイン学類が創設されたが，55 人定員計画のところ，15 人になってしまった。高校生にとっては，北陸地域の国立大学の中に唯一観光に特化した学類を開設した大学ということで，待ち望んでいた方が多いのではないか。しかし，定員減により倍率が 3 倍となってしまった。新しい学類の創設に向けて，国との認識のずれがないように，大学として対策または決意表明があればお願いします。

④ 学生に対し，学内交通ルールの指導についての通知がくるが，学外利用者でも構内を自転車で猛スピードで走る方や逆走する方がいるので，危ないと感じる。

⑤ 厩舎等学内の施設に無断で立ち入らないでほしい（馬術部員からの質問）。

⑥ 共通教育科目の GS 科目について，抽選の枠の取り方が不公平と感じる。知人は，学類移行のため，GS 科目を受講する必要があるが，毎回抽選に外れてしまう。優先指定制度を活用してもなお抽選に落ちたという話も聞いた。改善をお願いしたい。

金沢大学の説明・回答

① ご意見は学域学生課とも共有しました。窓口業務は統一した対応・回答をするように努めていますが，学生からの相談について係内での情報共有を更に強化し，今後も職員によって回答が異なることのないようにします。

② 駐車許可証は原則として申請期間外の交付申請を認めていないところ，大学院学生には研究活動の急変に鑑みて特別に臨時駐車許可証を発行することもある制度です。教育上の必要性もあり，学類学生は正規の申請期間を順守して交付申請してください。

③ 募集人員増は，学内外の資源を用いて行うこととなります。観光デザイン学類だけでなくスマート創成科学類についても募集人員増ができるように引き続き調整を進め，国の理解が得られるよう尽力してまいります。

④ 必修科目の「大学・社会生活論」の授業内容の一つとして”大人の交通マナー”にて，自動車運転に限らず自転車，バイク，公共交通機関の利用も含めて交通マナーの教育を行っています。学生向け冊子及び WEB サイトにて「きぃつけまっし」を配布及び公開し”自転車の交通ルール”を含め，交通事故防止対策の周知を行っています。

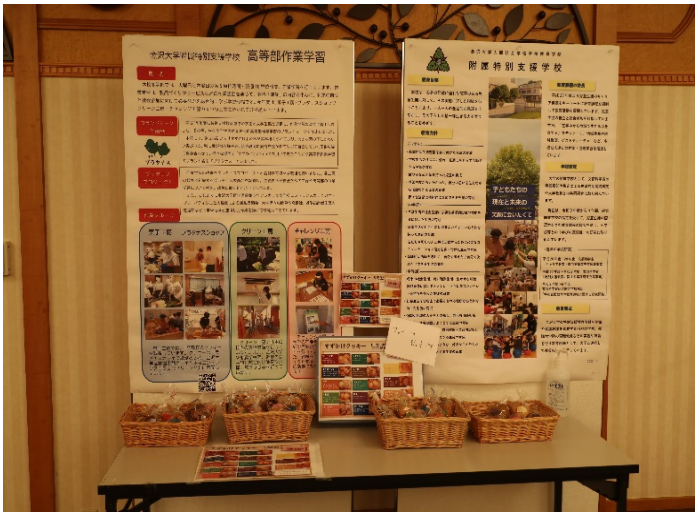
⑤ 従前から学外者が厩舎等に無断で入る件については，他施設利用者に対し本来厩舎だけではなく本学課外活動施設へは無断で立ち入らないよう，周知・徹底を図っています。
また，安全管理上の問題からも，特に対応を要請していることから，注意喚起を強化しても改善が見られないこと等があれば，詳細を連絡してください。

⑥ 履修登録の抽選について，授業科目のクラス数を履修予想数に対して 1.2 倍を目安に準備したり，どの学類からも原則 1 年次に 1 回，2 年次の前期に 1 回は最低履修できるよう時

間割を工夫したりしています。さらに，履修登録期間中は履修（抽選科目）登録状況をリアルタイムで公表（５分おきに更新）し，即時的な科目変更を可能とする等，柔軟な対応も実施しています。また，特定の学類や学年等を優先している時間割の科目もあり，シラバスで確認してください。
抽選で落ちることはありますが，それによって卒業に必要な単位が取れないという事例はこれまでありません。そのクォーターでの履修に捉われず，幅広く学修してください。今後も公平性に加えて利便性の改善にも取り組んでいきます。

その他：展示コーナー

金沢大学特別支援学校高等部が作業学習として販売している，すずかけクッキーを展示しました。

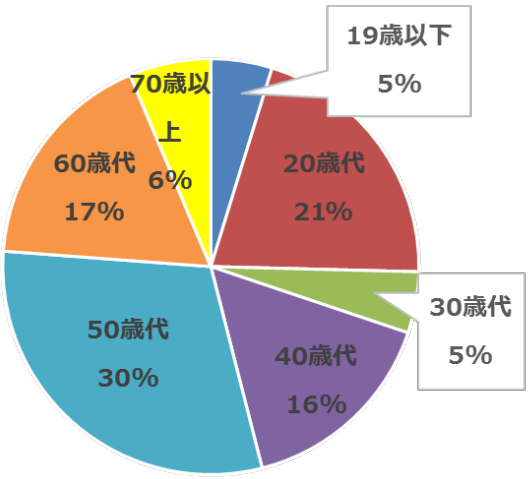


また，会場参加者の皆様にすずかけクッキー（ミックス）をお配りしました。

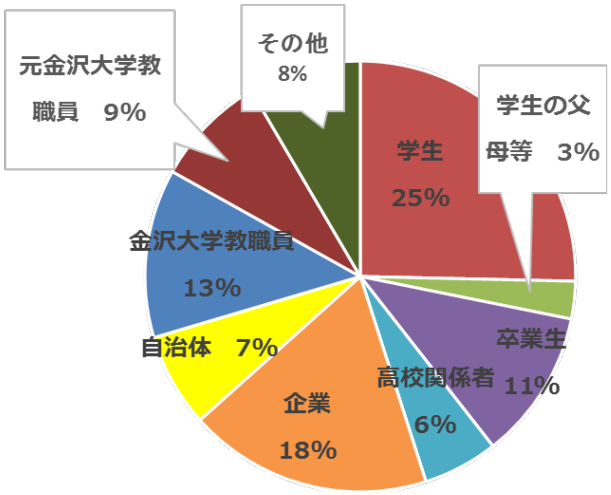
アンケート結果

回収件数〔回収率〕：63 件〔66%〕

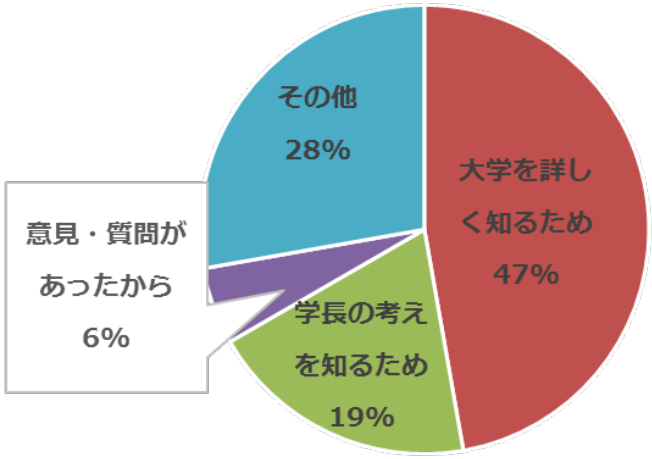
【１】年齢



【２】大学との関係区分



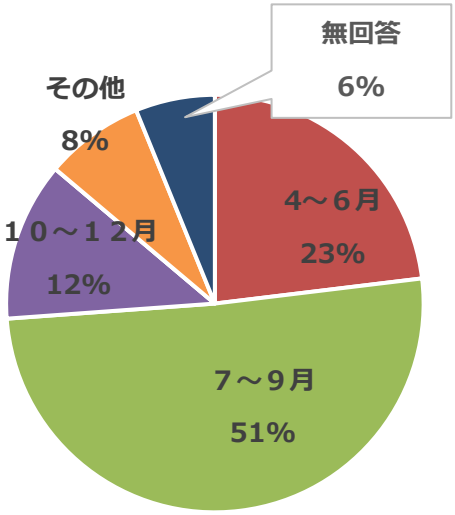
【３】参加目的



その他御意見

・大学との共同研究でつながりが深いため。
・学長が変わられて，大学がどうなるか気になったため。
・ステークホルダーと意見交換したいため（ほか同意見１名）。

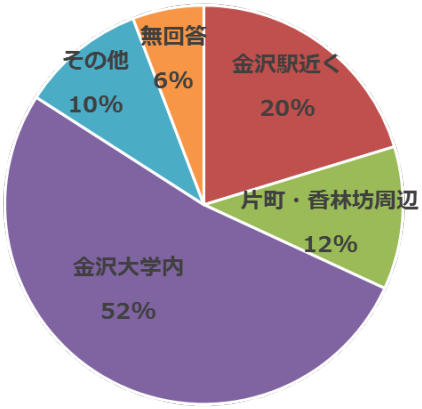
【４】適当な開催時期



その他御意見

・特にない（ほか同意見５名）。
・夏休み中の方が学生にとっては良い。

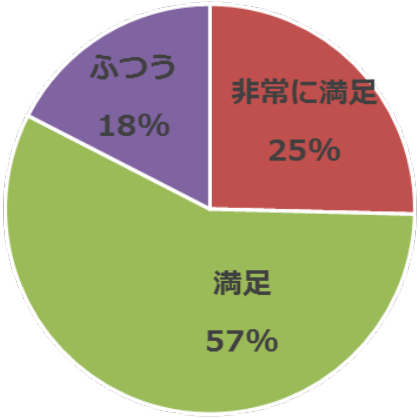
【５】適当な開催場所



その他御意見

・特になし（ほか同意見４名）。
・駐車場がある場所を希望（ほか同意見１名）。
・交通手段の関係上，金沢大学内を希望（ほか同意見１名）。
・金沢大学の現状を知るには大学内が望ましい。
・協議会前後で交流会ができる場所が良い。
・オンラインも併用して開催してほしい（ほか同意見１名）。

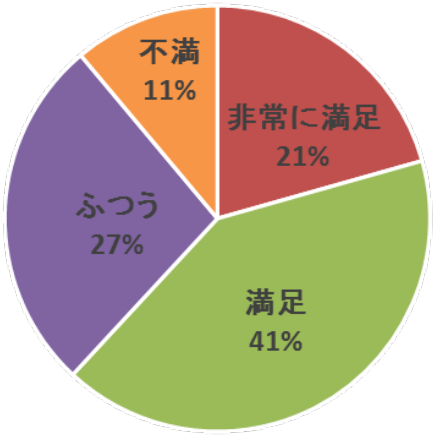
【６】近況報告について



その他御意見

・最新の大学情報を知ることができてよかった。「オール金沢大学」という言葉が印象に残った。
・学長が掲げられている「志」への想いを直接聞けて良かった。
・学内では見れない俯瞰した視点で現状を知ることができて良かった。

【７】分科会について



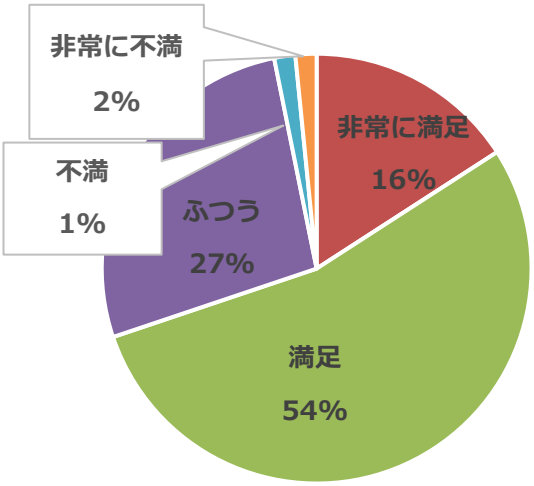
その他御意見

・先に分科会テーマ，資料を公開し，参加時に各自希望テーマに申し込みできるようにすれば理解が進むと思う（ほか同意見 12 名）。
・個室とし，周囲の雑音が影響しないような配慮があると良かった（ほか同意見６名）。
・発言者がマイクを適切に使えておらず，聞き取りにくいときがあった（オンライン参加者）。
・分科会によっては中々始まらず，他の分科会に移動した。
・席が後ろだと，スライドが見にくかった。
・分科会の時間をもっと長くとるべき（ほか同意見 19 名）。
・分科会で話し合った内容をもっとつめてほしい。濃い内容を目指してほしい。
・分科会で学生だけでなく，企業・教授，学類長の意見も伺いたかた。各分科会での意見や要望への返事を HP で掲載するといったご対応をよろしくお願いします（ほか同意見２名）。
・分科会の配布資料をオンライン参加者にも配布してほしい。

（前頁に続く）

・学長の言葉で近況報告があり，分かりやすく理解を深めることができた。30 分くらいの設定でも良いと思った。
・テーマごとに意見を出してもらう方法は良いと思うが，質疑や意見交換にした方が良いのではないか。
・テーマごとではなくテーマ課題横断的に学際的な発想で組分けしてもおもしろいのではと思う。
・分科会のお題は一つのほうが深く話せたかもしれない。
・テーマが絞り切れておらず，散漫な意見交換となった。
・関心あるカテゴリーが不足していた。
・ほかの分科会テーマも興味深く，どちらにすべきか迷った（オンライン参加者）。
・趣旨を明確にすべき。
・学生からの意見にも，積極的に取り入れようとしてほしい。
・まとめ役の負担が多かったと思う。

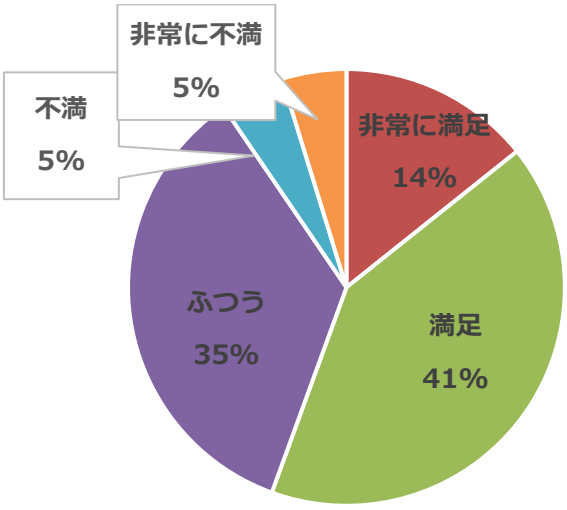
【８】配布資料について



その他御意見

・スライドの文字が小さいので，スライドの印刷物もあると良い（ほか同意見２名）。
・オンライン参加者にも資料を配布してほしい。

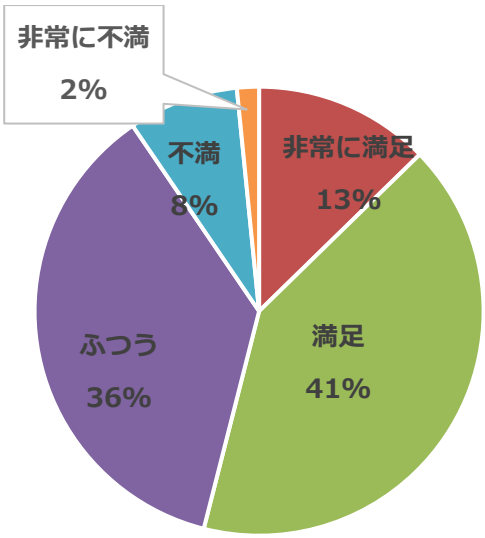
【９】質問への対応について



その他御意見

・学生自身の意見がメインとなっていたため，協議会としての質問として良かったのか。
・一部学生の質問が，協議会で話す内容には不適切だった。
・その場で回答をもらえなかった。
・時間が短く，対応に難儀しているように見えた。
・学生の質問に対しても，真摯に応えていた。

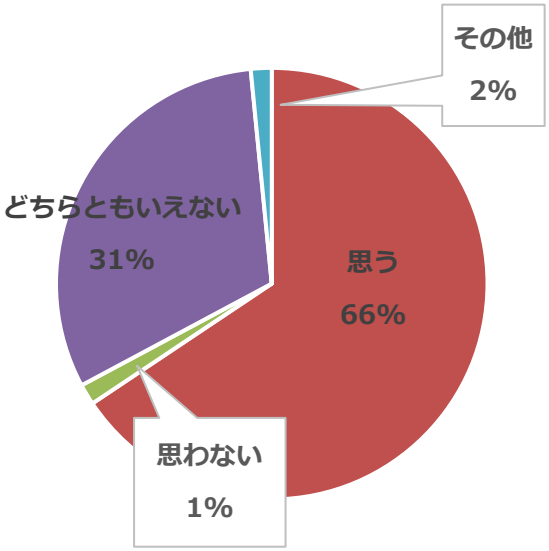
【10】進行について



その他御意見

・終了時間を守ってほしい
（ほか同意見２名）。

【11】次回の参加希望について



その他御意見

・意見が反映されるなら希望したい。
・金沢大学が何を伝えたいのか，アピールしたいのか，あまり響かなかった。

【１２】アンケートで頂いた御意見等

① ステークホルダー協議会について

・①学生生活，先魁　北溟寮②中福利施設③「魅力的な大学」④職員の職場環境，モチベーション，やりがい，従業員の満足度のテーマで行いたい。
・金沢大学に属する部活動・サークルの代表者が集まって意見交換をしたい。適切な対処を効率よく行うために，各団体の代表者が集まってディスカッションを行うのはどうか。
・全体報告について，時間を増やし，より詳細な説明があるとさらに理解が深まると思った。
・分科会形式は大学の取り組みを身近に知ることができ，とても良かったと思う。
・懇親会なども開催すれば分科会後もコミュニケーションがとれて良いと思う。懇親会がないのであれば，もう少し早い時間から始めれば良いと思う（ほか同意見１名）。
・十全同窓会総会と開催時間が重ならないような時間設定が望ましい。
・異業種の方と金沢大学というテーマでお話しすることができて楽しい時間を過ごせた。
・非常に良い機会となった（ほか同意見４名）。
・普段あまり接点がない役員や先生方の意見を聞くことができ，とても勉強になった。
・分科会形式は，学生の立場で発言できるという意味で良いと思った。のびのび発言させていただけたのはありがたかった。
・学生等からの要望等は，ステークホルダー協議会では不要と感じた。学生の声を聞く機会を別途作るべき（ほか同意見３名）。
・学生をもっと主人公に。大学のプロジェクトにもっと関与させたらよいと思う。
・初めてステークホルダー協議会に参加し，大学について詳しく知ることができた。多くの方と意見交換をすることができ，とても良い指摘をしていて，見解が広がった。大学に誇りを持ち，これからの学業をしっかり頑張っていこうと思う。
・分科会形式は意見が出しやすく，とても良いアイデアと思った。
・会の結びが簡潔でない。

⇒金沢大学の回答

貴重な御意見を誠にありがとうございます。開催場所や時期等について，いただいた御意見を踏まえ，次年度以降の参考とさせていただきます。また，分科会での意見交換は今回が初の試みでしたが，今後より良いステークホルダー協議会となるよう検討してまいります。

② 金沢大学について

・引き続き，様々なステークホルダーと連携し，地域の発展に繋げてほしい。

⇒金沢大学の回答

貴重な御意見を誠にありがとうございます。今後より一層，本学，そして地域社会の発展に繋げられるよう，ステークホルダーの皆様との対話を大切にしてまいります。

【大学経営カテゴリー】

① 大学経営について，ガバナンスの強化と学生に寄りそった人的教育が課題と考える（卒業生・企業）。

② 大学の方針・方向性について，全教職員，とりわけ事務職員に学習させ理解させ徹底させる取り組み状況がみえない。工夫して取り組んでほしい（元金沢大学教職員）。

⇒金沢大学の回答

① 令和 4 年度に，金沢大学未来ビジョン「志」を策定しました。学長のリーダーシップの下，教員と職員が協働し先駆的・戦略的な改革を推進します。さらに，多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じた大学経営，資金・人・知が好循環する持続可能な運営・経営の確立を目指します。また，大学入学から博士課程や専門職課程を含む大学院修了までをワンストップでサポートできる体制を整備するなど，今後さらに学生に寄り添った支援に努めてまいります。

金沢大学未来ビジョン「志」

https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/management/plan

② 本学では，毎年４月に，新任の教職員に「新任教員説明会」への参加を義務づけています。本説明会では，学長・理事から本学の到達目標，現状及び課題等を直接伝えることで，大学運営についての理解を深めることに繋げています。

また，事務系の初任職員を対象に，「トップマネジメント経験研修」を実施しています。本研修では，学長及び理事が出席する会議，イベント，打合せ等に陪席することにより，大学の方針，方向性が決定する過程を間近で経験することができます。研修終了後にはレポート提出を課し，本研修で得られた成果を今後どのように活かすか考えさせる仕組みづくりを行っています。

【教育カテゴリー】

① 先魁等の寮に入るハードルが高いので，もっと学生に身近な存在になるようにした方が良いと思う（学生）。

② 新学類の情報が受験生に十分に届いていないように思う。充実してほしい（学生）。

③ KUGS 特別入試は入学後のカリキュラムに魅力がないと学生が集まらないと思う（卒業生）。

④ 総合教育部の学類移行について，その時の社会状況に応じ，人員の割当を増減してはどうか。例えば，総合教育部の理系は，医学類への移行が可能だが，今の社会情勢からすると，医療の分野の需要が上がっているにも関わらず，移行できる人数が少ないと感じる。総合教育部においても，社会のニーズに合わせて柔軟に考える必要があると思う（学生）。

⑤ 文理融合や高大接続など，大学での学びが広がっていると思った。社会や中高生との関わりを増やしていくとよいと思った（学生）。

⑥ 次世代精鋭人材創発プロジェクト等の支援を引き続きお願いしたい。大学院生（特に博士）にとって，金銭支援の有無で研究に集中できるか，ひいては研究成果が出るかが変わると考える（学生）。

⑦ 金銭的に厳しいかもしれませんが，IEEE を年間購読できるようにできないか。第一線の研究を出すには，第一線の論文を，学生を含め容易に Catch Up していくことが重要であると考える（学生）。

⑧ 最後の質疑応答では，金沢大学生が不便に感じていること等を述べていた。実情は分からないが，そのような意見が多いのであれば，学生のことを考えた対応を心がけるべきだと感じた。今はＳＮＳ等で何でもすぐに拡散する時代であり，このようなことが積み重なると，金沢大学の魅力が低下することが懸念される（高校関係者）。

⇒金沢大学の回答

① 学生留学生宿舎は，金沢大学憲章に「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」と謳い，大学を挙げたグローバル化を強力に推進する中でグローバル化に対応した新しい人材育成のため設置しました。

そのため，当該学生宿舎への入居は，外国人留学生と日本人留学生が一つのユニット（男女別）で生活するシェアハウス型となるため，それぞれの学生宿舎で入居を募集する対象者を定めています。学生宿舎への入居に関して分からない点等あれば学生支援課に相談してください。

【先魁】

1.国際交流に興味があり，留学生との交流を望む者。
2.ある程度のコミュニケーションが可能な語学力のある者。
3.共同生活において協調性がある者。
4.ＲＡとして意欲的に活動し，責任を持って役割を全うできる者。
※留学の希望のある者若しくは経験のある者が望ましい。

【北溟】

1.在学中における海外留学等の国際交流活動を具体的に計画している者
2.国際交流に興味があり外国人留学生と積極的に交流できる者
3.協調性があり他者との共同生活が無理なくできる者
4.ルールを順守し責任を持った行動ができる者
5.学生寄宿舎の運営に関し積極的に協力できる者

なお，外国人留学生との国際交流について，本学では留学生との交流イベントを多数開催しています。

② これまで実施していた，Web サイト掲載，受験生向け雑誌掲載，キャンパスビジットやオープンキャンパスでの発表，オンライン説明会等々の活動に加え，新たなコンテンツ（動画など）の作成，また，これを用いて各種 SNS での展開や高校への訪問の対象校の拡大など，広報活動をより広く行います。設置認可申請中は学生募集活動が禁じられていることもあり，大学案内や Web サイトを充実させ学類の特徴等を分かり易くする等，受験者が情報を容易に入手できるようにしています。また，認可後の秋季キャンパスビジットや進学説明会等で，新学類の情報をより多く発信します。

③ KUGS 特別入試は入学者選抜の一方式に過ぎず入学後のカリキュラムは各学類単位で同一です。

なお，本人の経験を活かす観点から，GSC（グローバルサイエンスキャンパス）や高大接続ラウンドテーブルへの参加・サポート等により，さらに自己の能力を磨くことがで

きる機会を与えたり，KUGS 特別入試入学者用の講義・イベント等を設けたりするなどの工夫も検討していきます。

KUGS 特別入試

https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission/special/kugs

GSC（グローバルサイエンスキャンパス）

https://gsc.w３.kanazawa-u.ac.jp/

高大接続ラウンドテーブル

https://www.kanazawa-u.ac.jp/examination/event/koudai/roundtable-2

④ 社会情勢に応じて，一括入試の募集人員は毎年変更も含めて検討しています。ただ，ご意見のような医療職分野，特に医師国家試験受験資格を得る医学類入学定員は合計数で一定である上，文部科学省と厚生労働省によって，総合教育部からの移行定員を含めた総定員が厳しく管理されていることから，本学がその時の社会情勢により，総合教育部から医学類への移行定員を含めた医学類総定員を変更する裁量は有していません。

⑤ 金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）教育を学士１年次から博士後期３年次まで一貫化したり，インターンシップの人数や派遣先を拡大したり，分野融合や社会展開に資する教育を拡充していきます。また，ジュニアドクター事業やグローバルサイエンス事業，KUGS 特別入試，そしてオープンキャンパス等を通じて，中高生との関わりを強化していきます。

金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）

https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/distinctive/global

ジュニアドクター育成塾

http://jr-doc.w３.kanazawa-u.ac.jp/jd/

GSC（グローバルサイエンスキャンパス）

https://gsc.w３.kanazawa-u.ac.jp/

KUGS 特別入試

https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission/special/kugs

オープンキャンパス

https://examination.w３.kanazawa-u.ac.jp/event/opencampus/

⑥ 本学は今般，次世代精鋭人材創発プロジェクトを含む博士課程学生支援３事業を「金沢大学博士研究人材支援・研究力強化戦略プロジェクト」として一体化し，本学独自の助成も強化しました。

これにより，より多くの優秀な博士課程学生への支援を可能とする体制を構築するとともに，本学の新たな未来ビジョンにおいて最重要ミッションの一つに掲げる大学院の飛躍的な機能強化を目指し，今後も国の制度改革や支援事業を常に見据えながら，より多くの優秀な博士人材を輩出すべく力を尽くしていきます。

金沢大学博士研究人材支援・研究力強化戦略プロジェクト

https://www.kanazawa-u.ac.jp/campuslife/economic/f-ship

⑦ 学術研究の基盤となる電子ジャーナル，データベース等の電子資料を継続的に購読するために，計画を立てて購読タイトルの選定を行っています。購読計画は３年ごとに見直しを行い，選定に当たっては，教員からの要望や利用状況等を反映し決定しています。

⑧ 本学では，学修及び生活環境の一層の充実に資するため，全学類学生対象に隔年で学生生活実態調査（回答率 50%以上）を実施し，学修環境，学生支援，相談体制，大学施設，課外活動，アルバイト，経済的支援，友人関係等の実状や要望等を確認しています。自由記述での意見は，関係部署に情報共有（学外にも回答・対応を要請）し，学生生活の改善に役立てています。
なお，社会の変容や学生の多様化から様々な意見が寄せられ，本学のルールに基づき対処する必要がありますが，取り入れるべき意見には柔軟に対応していきます。

【社会連携カテゴリー】

① 外国人研究者の受入は国際化を助けるのではないか。特に博士研究員や助教などの採用が増えると，日本人学生が外国の方と接する機会が増え，国際化に繋がると考える（学生）。
② 民間企業に勤めている立場から，金沢大学の取り組みが見えにくいと感じた。他大学などは民間企業との連携やイノベーションという点をもっと発信している印象を受ける（卒業生）。
③ 金沢大学と角間里山みらいが協力して行ってきたキャンパス整備は継続するのか（地域）。
④ デジタル化が進む中，金沢近郊の取り組みのみならず，県内をカバーする交流をしていって欲しい（ほか同様の質問 1 件）（企業）。
⑤ 学外との連携促進という視点では，大学や各教員の「やりたいことリスト」のようなものがあると，連携の打診を行いやすくなるのではと感じた（自治体）。
⑥ どのような研究所があるのか，金沢大学の得意分野を知りたい。また，大学として説明，紹介したいものは動画等を使えば良いと思った（学生）。
例) WPI，自動運転，融合学域，GSC の取り組み等
⑦ 就職に関する交流を要望する（企業）。

⇒金沢大学の回答

① 教員・博士研究員の公募時には積極的に国際公募を行い，外国人研究者の受入増加に努めています。また，国際化に資する取り組みとして，国際共同研究に特化した学内研究支援プログラム「戦略的研究推進プログラム 燦燈プロジェクト(以下「燦燈プロジェクト」という)」を令和３年度から実施しています。
燦燈プロジェクトは，国際共同研究を推進し，国際的なネットワークの形成及び本学の研究の発展に寄与する本学の研究プロジェクトに対して支援するものです。研究メンバーとして 1 人以上の海外研究機関所属の研究者を含めることを必須としているほか，学内においては常勤の教職員だけでなく，博士研究員や大学院生などの若手研究者をメンバーに含めることが可能で，若手研究者の海外研究者との交流を推奨しています。
② 令和３年度に共同研究，受託研究，技術相談，ベンチャー及び起業に関する全般的な総合相談窓口としてワンストップサービス窓口を設置し，容易に相談ができるように整備しました。また，令和３年 10 月には，これらの仕組みに加え，学術コンサルティングや研究分野別シーズ集の紹介等，産学連携全般をまとめたリーフレット「金沢大学と始めるイノベーション」を作成し，企業へ配布しています。

令和４年度はバイオマス・グリーンイノベーションセンターの設置に伴い，ホームページ等でさらに民間企業との連携を発信していく予定です。

ワンストップサービス窓口

https://o-fsi.w３.kanazawa-u.ac.jp/contact/

リーフレット「金沢大学と始めるイノベーション」

https://o-fsi.w3.kanazawa-u.ac.jp/company/cooperation/

③ 角間里山の整備については，里山ゾーンの適切な管理，活用の施策を推進することを目的として「角間里山本部」が設置されており，里山での活動を行う方には利用者登録をしていただいているところです。令和４年度においても，角間里山みらい様より登録依頼があり，里山保全や人材育成，啓発活動のため利用する計画と伺っております。

④ 令和３年 11 月に，北陸経済連合会と本学を含む北陸地区の国立４大学が主幹となり，会員登録型の産学官金プラットフォームとして「北陸未来共創フォーラム」を創設しました。市内・県内のみならず北陸三県をカバーするより一層の広域連携・交流の促進に取り組んでまいります。

北陸未来共創フォーラム

https://hokuriku-mirai.jp/

⑤ 研究における連携促進のため，本学公式 Web サイト「研究者情報」において「共同研究希望テーマ」の項目を設け，各教員が希望するテーマを記載しています。同様の項目は，同サイトの「研究分野別シーズ集」からもご覧いただけます。

研究者情報

https://ridb.kanazawa-u.ac.jp/public/index.php

研究分野別シーズ集

https://ridb.kanazawa-u.ac.jp/seeds/

その他の事項に関しても，社会との更なる連携促進を目指し，分かりやすい情報発信に努めてまいります。

⑥ 本学には，６つのフラッグシップ研究所（がん進展制御研究所，ナノ生命科学研究所，ナノマテリアル研究所，設計製造技術研究所，高度モビリティ研究所，古代文明・文化資源学研究所）の他に，7 つの研究センターがあります。それぞれの研究所は Web サイトを開設しており，研究所によっては動画コンテンツも掲載されています。また，同サイトの「特色ある研究プログラム」では，本学に優位性のある研究領域を核とした世界的な研究拠点を形成するための学内研究支援プログラムである「超然プロジェクト」採択課題をはじめ，様々な研究を紹介しています。今後さらに動画コンテンツを充実させ，本学の特徴的な研究を発信していきます。

研究拠点 URL

https://www.kanazawa-u.ac.jp/research/centers

特色ある研究プログラム

https://www.kanazawa-u.ac.jp/research/distinctive

⑦キャリア支援室主催イベントとして次の事業を実施し，多様な出展企業を募集しています。

インターンシップ合同企業説明会（６月開催・４月出展企業募集）

業界・企業研究会　（１月／２月／３月開催・10 月出展企業募集）

募集に際しては，本学 Web サイト（金沢大学トップ ＞ 教育 ＞ 進学／就職 ＞ 採用担当の

方へ）において公募します。
本学 Web サイト（金沢大学トップ > 教育 > 進学／就職 > 採用担当の方へ）
https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/employment/recruitment

【国際カテゴリー】

① 留学生の現況（就職先の希望等）を教えてほしい（国際）。

② 大学内のみならず，地域にも呼びかけ，日本で生活するベジタリアンの留学生の支援を充実させてほしい（学生）。

③ 留学生との交流の機会を増やしてほしい。タンデム企画も良いが，印象としてアカデミックに感じてしまうので，もう少しカジュアルな印象になればよいと思う（学生）。

※タンデム企画：

スーパーグローバル大学創成支援事業を学生目線で推進する学生団体（以下「KU-SGU Student Staff」という）が主催する，日本人学生と外国人留学生がペアとなり，1 対 1 で定期的に交流や話合いを行い，より親密な関係を築き，お互いの得意な言語や文化を学び合うとともに，語学力の向上や異文化理解の深化を図ることができる企画。

https://www.kanazawa-u.ac.jp/news/106586

また，この他にも，在学する留学生を囲んで様々なテーマについて気軽に語り合い，国際交流を通じて留学に対する意識のハードルを下げる企画「世界の魅力発見！～ワクワク国際交流会～」を開催しています。

https://www.kanazawa-u.ac.jp/news/108747

⇒金沢大学の回答

① 外国人留学生の日本就職の実績は以下のとおりです。

・R3 年度卒業・修了者 167 名中 34 名が日本就職

・R2 年度卒業・修了者 154 名中 35 名が日本就職

なお，在学者においては約 25%の留学生が日本就職を希望しており，日本での就職先としては研究機関，製造業，情報通信業が多い傾向にあります。今後もさらに地域の産業界を見据えた，日本定着策を強化します。

② 自治体・近隣小学校・町内会などの地域との留学支援の協議の場において，ベジタリアンやヴィーガンの留学生への支援についても呼びかけていきます。

③ 外国人留学生と外国人研究者等が一堂に会して交流を深められるよう，令和４年度から年３回程度の交流イベントを開催予定です。令和４年７月には七夕 Fes を開催し，４6 名の留学生等がイベントを通して親交を深めました。留学生と日本人学生が参加しやすく，交流を深められるイベント等を今後も企画・開催していきます。また，百万石踊り流しへの参加など，引き続き，地域のイベント等への参加も計画していきます。

外国人留学生・研究者交流イベント「七夕 Fes」

https://www.kanazawa-u.ac.jp/news/107906

百万石踊り流しへの参加

https://www.kanazawa-u.ac.jp/news/106886

【施設カテゴリー】

① 体育館にエアコンを設置してほしい（学生）。
② H 駐車場の枠線を補修してほしい。また，駐車台数の配分・拡大を検討してほしい。例えば，K，L 駐車場がかなり満車になっている（学生）。
③ 駐車許可申請について，課外活動用と通常用の両方の駐車場を申し込むことはできないのか（学生）。
④ 除雪に関して，歩道や夕方の除雪も必要と考える。（学生）。
⑤ 福利厚生（例えば生協の営業）を強化して欲しい。メニュー等，学食を充実させてほしい。また，角間キャンパスの生協は機能しているのに，保健学類（つるま）の生協が機能していない。不公平だと思う。利益の問題であればトータル的に考えてほしい。場合によっては，委託業者の選択も見直すべきだろう。学生の利便性を考えてほしい。また，遅い時刻のバスも整備してほしい（学生，学生の父母等）。
⑥ 構内にコンビニを導入してほしい（学生）。

⇒金沢大学の回答

① 課外活動施設へのエアコン設置は，優先順位が高いと判断する施設から随時設置を進めていますが，体育館への設置は長期的課題と考えています。
② 駐車場の区画線補修については，老朽化や予算の状況を鑑みて計画的に補修しています。K,L 駐車場の近年の状況は，最大駐車率では K は４0%弱，L は 90%後半となっており，L が満車状態となる時があるのは認識しております。その際には，空いている K に駐車するようにお願いしています。
③ 課外活動用と通常用の重複申請や角間キャンパス内で異なる駐車場への申請は，駐車スペースが限られていることもあり認めておりません。なお，鶴間キャンパス通学者が，課外活動のため角間キャンパスの駐車許可証を希望する場合は，スペースを考慮の上，学生支援課で対応しています。
④ 予算や人員確保等の事情により，すべての歩道の除雪の実施や１日に複数回の除雪は難しい状況ですが，できるだけ対応できるように努めてまいります。
⑤ 令和３年度に実施した「学生生活実態調査」の自由記述欄に同様の要望等が多数寄せられており，生協に対する要望は金沢大学生活協同組合に，バスに対する要望は北陸鉄道に，それぞれ確認・対応をお願いしています。
⑥ いただいたご意見も踏まえ，構内の施設については，学生や教職員の皆さんがより快適に過ごせるよう，検討してまいります。

【広報カテゴリー】

① 大学として様々な取り組みを行い，改革を行おうとしているのは分かるが，学生や教員，市民に伝わっていないと思う（学生）。
② 新聞やその他の媒体を含め，もう少し情報発信してほしい（元金沢大学教職員）。
③ 金沢大学のブランド化をもっとすすめてほしい（学生の父母等）。
④ 城内キャンパス跡地に金沢大学があったというシンボル等を置くという計画はないのか（卒業生，企業）。

⇒金沢大学の回答

① 学内教職員・学生に向けては，広報誌「Acanthus（アカンサス）」や Web サイト等だけでなく，学内のポータルや学内メールを用いて定期的に情報発信を行っています。市民や社会に向けては，大学の取り組みを積極的に発信するために，従来の広報活動に加えて，Web サイトや SNS（Facebook，Twitter，Instagram）などを用いた情報発信を推進していきます。

② 令和３年度の本学に関する新聞等で取り上げた記事件数は 2,520 件であり，マスメディアでも研究成果などが取り上げられています。一方で，新聞報道の多くが地方紙や地方欄のため，今後も SNS や動画などインターネットを通じて全国・全世界への情報発信を更に充実させていきます。また，全国紙の新聞や雑誌との企画も更に推進していきます。

③ 本年度より，広報戦略に関する学内組織を充実させ，金沢大学のブランド化を更に推進しています。本学の最も重要なブランドは，学生など人材（「金沢大学ブランド人材」）です。教育，研究の改革とともに，本学の学生や教員の活動を対外的に発信し，金沢大学ブランドの発展に取り組みます。

④ シンボルを新たに設置することは予定しておりませんが，金沢城公園には，石碑「学は以て已むべからず」と「金沢大学誕生の地」があり，城内に金沢大学があったことを示しています。

金沢大学
KANAZAWA UNIVERSITY

発行・編集　金沢大学総務部
〒920-1192　金沢市角間町　電話 076-264-5111